

卒業生からのメッセージ

濱田 大輔

Daisuke HAMADA

株式会社福岡 CSK

Fukuoka CSK Corporation

<http://www.csk.com/fukuoka/>

西岡 麻美

Asami NISHIOKA

ソフトウェア情報開発株式会社

Software Knowledge Incorporated

<http://skig.co.jp/>

1. 好奇心を持とう

(濱田 大輔)

本学を卒業して早6年が経ち、今年で社会人7年目となります濱田大輔と申します。

現在、株式会社福岡 CSK(以下福岡 CSK)に勤務しており、主に組込み系システムの開発に携わっています。

7年目ということもあり、後輩社員への指導や仕事への責任も増え始め、自身の存在価値を問われる機会が多くなってきました。目の前の仕事をがむしゃらにこなしていた、いわゆる「若手社員」から一皮むけて、会社の中心人物となるべく第一段階に、ようやく到達したかな?と思っているところです。

私達福岡 CSK では「IT サービスで地域の活性化に貢献する」を合言葉とし、福岡を中心とした製品組込み系システムや、業務系ビジネスシステムなど様々なシステム開発を行っています。情報科学部の皆さんの中には福岡 CSK を知ってる方もいらっしゃるかと思います。2004 年から始まった「プロジェクトベース設計演習」(3 年後期)のインストラクタを務めさせて頂いています。私も大学3年の時、当演習(当時は「組込みソフトウェア技術者育成実践教育プログラム」)の初を受講生として参加し、そこでシステム開発の楽しさを知り、そして今に至ります。

さて、卒業生からのメッセージということで、私から皆さんへ何を伝えることができるか考えてみました。前述しましたプロジェクトベース設計演習に、毎年参加している為、多くの学生さんや先生方と話す機会があるのですが、よく話題に上がるのはやはり就職についてです。就職活動を頑張ってる人、なんとなくやってる人、全くやる気のない人、様々な話を聞きますが、その中でも、自分のやりたいことや、就きたい職業がイメージできないせいで、就活にやる気がで

ないと言う方へ是非やってほしいことがあります。それは、『好奇心』を持つことです。

人間誰しも嫌いな事はやりたくなし、面倒くさい事は避けたいですね。でも、嫌いなことでも面倒くさい事でも、やらないといけない時ってあると思います。そんな時は、ほんの少し『好奇心』を持ってやってみてください。最初から嫌々やっても嫌なものは嫌でしかありません。でも、少しのワクワクやドキドキといった感情があるだけで視野は 180 度変わります。もしかしたら何かちょっとした面白いことが見つかるかもしれませんよ。そして、そのちょっとした面白さがちょっとした切っ掛けで趣味ややりたいこと変わる…かもしれません。そう考えれば嫌々やるより随分ましだと思いませんか?

私の場合はプロジェクトベース設計演習がまさにそれでした。当時話を聞いた際は何の事だかさっぱりでしたが、他と何か違うという『好奇心』から参加し、それが思いのほか面白く、最終的にはこの仕事がやりたいとまで思えるようになりました。授業に限らずバイト、サークル、趣味、何でも構いません。どうせやるなら『好奇心』を持ってやってみてください。

最後に、これから社会へ出ていく皆様へ。

大学を卒業して会社に勤めだすと、自分も含めて周りの環境が劇的に変化します。もちろん就職先にもよりますが、時間の制約であったり、自分の役割や責任など根本的な部分はどんな業種でも同じです。講義に遅刻したり、バイトで失敗した際の「重み」とは全く違います。入社して間もない頃は苦しい、辛いと思うことも多々あると思いますが、そんな時こそ『好奇心』を忘れずに、是非乗り越えてほしいと思います。

限られた大学生活、悔やむことなく精一杯有意義に過ごしてください。その有意義に過ごした時間が、変化に対応する為の絶大な力になります。そして近い将来、同じ業種の方も違う方も、社会人として同じ

舞台と一緒に仕事ができる日が来ることを願いつつ、私からのメッセージとさせていただきます。

著 者 紹 介

濱田 大輔（はまだ だいすけ）

平成 14 年 3 月 福岡県立香椎高等学校卒業

平成 18 年 3 月 九州産業大学情報科学部知能情報学科卒業 一ノ瀬研究室所属

2. 在学中の皆さんへ （西岡 麻美）

情報科学部を卒業し、早 5 年が経過いたしました。私は、大学を卒業後、地元福岡を離れ、東京で働いております。最初は戸惑うことも多々ありましたが、今では東京の生活にもなじむことが出来、日々を楽しく過ごしております。

弊社は「一流の中小企業」を目標に掲げ、様々なプロジェクトにそれぞれの強みを生かして、日々業務を行っております。（弊社の雰囲気を知りたい方は、是非会社説明会に行ってください、とてもよくわかっていただけるかと思います。）私自身、周りの志の高さに触発される面も多々あり、日々意欲的に業務を行っております。

正直な話、堅苦しい言葉での説明など、私は得意とはしておりませんので、思うがままに筆を執らせていただきます。少しでも、在学中の皆さんの心に響けば嬉しく思います。

私が主に携わってきたプロジェクトはいくつかありますが、どれもアプリケーション開発と言われる内容です。情報科学部で教えてもらっている授業を使うことも多々あります。特にプログラミングの基礎系の授業や、ソリューションに関する授業は、是非とも受けていただくと、後々大変役に立つかと思います。（私がアプリケーション開発を主に行ってきた為、上記がイメージしやすかったですが、基礎を身に付けておいて不利になることはありません。）基礎的な部分がないとどうしても周りより遅れたスタートとなってしまう。せっかく授業で学んでいるのですから、基礎をしっかり固めて、社会に出ると身に付くスピー

ドが違います。正直なところ、もっともっと勉強しておけばよかったと思うこともあります。社会は勉強する場ではなく、仕事をする場なので、今のうちにたくさん勉強しておいて下さい。皆さんにはそんな思いはして欲しくないのです、どんどん勉強して下さい。

ただ、基礎を身に付けているからと言って、安心はできません。現在、多数の会社が中国など海外での開発を進めています。その為、国内での開発は日々少なくなっている現状があります。そんな中で社会を生き抜くためには、技術力を磨くことはもちろんのこと、行動力やコミュニケーション能力、広い視野、細かな判断など、さまざまな能力が必要となってきます。などと記載しておりますが、本当にさまざまな能力を駆使しないと、社会を生き抜いていけません。

私は、在学中いろいろな体験をさせていただきました。サークル活動、インターンシップ、オープンキャンパスの手伝いなど、人と触れ合うことをたくさん行ってきました。実際、就職活動をされている方など「コミュニケーション能力が必要だ！」といろいろなところで聞かれます。サークル活動はさておき、情報科学部ではインターンシップも盛んかと思ひますし、オープンキャンパスも率先して活動している研究室も多々あるかと思ひます。（私が知っている頃からはもっともっと変わっているかとは思ひますが、無くなっていることはないはずです。）「めんどくさい」や「わずらわしい」など思わず、一度本気で携わってみて下さい。本気で携わることで、いろいろなことを学ぶかと思ひます。

私は行動力やコミュニケーション能力を学びましたが、人によっては細やかな作業を得意とすることや、突発的な対応力、リーダーシップなどを学ぶかもしれません。その経験からの学びが生かされる場面は必ずあります。すぐになくとも、必ずあるはずです。

また、冒頭でも述べましたが、私は大学を卒業と同時に東京に出てきました。皆さんの中には東京というと尻込みしてしまう方が多数いるのではないかと思います。以前、皆さん情報科学部の学生の方とお話する機会があった際、「福岡で就職を考えている」という声を多数聞きました。「福岡で就職を」と考える理由もいろいろあるかと思ひます。ただ、いろいろ考える中に、福岡を出るという考えもぜひとも入れて欲しいと思ひます。私個人の話ですが、漠然と「東京は怖いと

ころ」というイメージがありました。それでも、一生に一度は東京で働いてみたいという憧れもあり、東京に出てきました。

実際、私は東京に出てきてよかったと思っております。私は「福岡」という土地しか知りませんでしたが、東京を知り、どんどん周りに興味を持っていくことを覚えました。誰も知らない土地で生きていく不安はありましたが、誰も知らなければ、知り合いを増やせばいいのです。私を一から知ってもらえばいいのです。福岡にいたとしても、社会に出ればほとんど知らない人ばかりです。どこで働こうと変わりはありません。でしたら、大阪でも東京でもはたまた海外でもよいのではないのでしょうか？

また、東京に出てきたからこそ福岡の良いところにも気づけました。私は福岡出身者として福岡に対して自信を持っております。ですが、東京に出てきていなければそれは井の中の蛙でしかなかったと思っております。ぜひとも福岡に固執するのではなく、いろいろなところに羽ばたいて下さい。(実際、こんな私が東京で 5 年以上働いているんです。怖いところなわけありません。)

最後になりますが、初めからなんでもうまく出来る人間なんていません。社会人になり、様々な悩みや壁があります。毎日が悩みや壁でいっぱいです。それでも、私は楽しく仕事をしております。恐れることなく、ぶつかり、挑み、そして乗り越えて下さい。乗り越える自信がないのであれば、学生時代たくさん挑んで下さい。それこそが、学生時代に出来るかけがえのない体験だと思います。

著 者 紹 介

西岡 麻美 (にしおか あさみ)

平成 15 年 3 月 筑紫女学園高等学校卒業

平成 19 年 3 月 九州産業大学情報科学部知能情報学科卒業 松永研究室所属